

競技運営規程

- 1 本大会の運営は、この運営規程による。
- 2 競技規則は、2026 日本ホッケー協会競技規則に準ずる。
- 3 競技時間は小学生・中学生ともに前後半各 10 分、ハーフタイム 2 分とする。
- 4 競技方法
 - 小学生男子の部（15 チーム）は、参加チームを 4 グループに分け予選リーグを実施し、各グループの第 1 位および B、C、D グループの第 2 位による決勝トーナメント戦をする。
 - 小学生女子の部（12 チーム）は、参加チームを 4 グループに分け予選リーグを実施し、各グループの第 1 位および第 2 位による決勝トーナメント戦をする。
 - 中学生男子の部（24 チーム）は、参加チームを 8 グループに分け予選リーグを実施し、各グループの第 1 位による決勝トーナメント戦をする。
 - 中学生女子の部（24 チーム）は、参加チームを 8 グループに分け予選リーグを実施し、各グループの第 1 位による決勝トーナメント戦をする。
- 5 延長戦
 - ① 延長戦は行わない。
 - ② 決勝トーナメント戦において、時間内に勝敗が決しないときは、7 に定めるシュートアウト（S O）戦によって勝敗を決定する。
- 6 勝点制について

リーグ戦において、試合の結果、勝点の多いチームを上位とし、勝ちチームに 3 点、負けチームに 0 点、引き分けの場合はそれぞれ各 1 点を与えるものとする。勝点と同じ場合は、下記の事項により順位を決定する。ただし、4 チームによるグループについては、変則リーグ方式のため、アとエ（イとウは関係なし）の事項で順位を決定する。

（ア）直接対決の勝者 （イ）得失点差 （ウ）総得点 （エ）S O戦
- 7 S O戦による勝負の決定方法
 - ① 両チームの主将は、自チーム内よりレッドカードによる退場処分を受けている選手を除いた、出場登録済みの選手の中から 3 名の選手と 1 名のゴールキーパーを指名する。
 - ② 両チーム主将によりトスを行い、先攻後攻を決める。その後両チーム 3 名ずつの選手により交互に攻防を 1 巡行い（計 6 本）、得点の多いチームを勝者とする。たとえ 6 名の選手全員が終了していなくとも、勝敗が決まった時点で、S O戦を打ち切る。
 - ③ ②の方法によって勝敗が決しない時は「マッチプレー方式」すなわち両チームが同

数行った中で最初にリードしたチームを勝者とする方式により、再SO戦を行う。
この時は最初先攻のチームが後攻となり、選手はプレー不可能な者を除き、各チームは最初と同じメンバーで行う。ただし、順序は変えてもよい。

8 競技規則の注意点について

- ① PC 守備時の残り 2 名について、小学生の部においてはセンターラインから向こう側、中学生の部においては、相手側バックラインから 16m 以内とする。
- ② グリーンカードについては、1 分間、イエローカードについては 2 分以上の退場となる。
- ③ 小学生の部において、振りかぶって行うリバースヒットは禁止とする。
- ④ SO は 6 秒、16m ポイントから実施する。
- ⑤ ペナルティコーナーの守備者が、PC 防具を装着している場合で、守備者が PC 用の防具を取り外す適切な機会が無かった場合、自陣エリアにいる間、ペナルティ無しで防具を着用し続けることができる。すべてのプレイヤーは、自陣エリアから出る前、または審判から指示されたときに、すべての保護具を外さなければならない。
- ⑥ ペナルティコーナーの完遂の前に守備側プレイヤーが意図的にフェイスマスクを外した場合、攻撃側に再びペナルティコーナーが与えられる。
- ⑦ 落下地点でレシーブしようとしているプレイヤーに対し、4m より離れた地点から近づいてボールをインターセプトすることができる。ただし、プレイヤー同士がプレー可能範囲内でないこと、かつ安全にプレーできる状態であること。
- ⑧ マウスピースの着用の有無は、本大会では特に問わないので、監督の責任において管理を行うこと。
- ⑨ 試合開始時または試合中において、選手が 4 名未満になった場合、棄権扱いとし、5-0 で相手チームの勝利とする。ただし、一時退場やけがの手当てなどの場合は除く。

9 その他

- ① 選手の交代は、ジャッジ席側センターラインで行うこと。
- ② 出場チームが試合開始時刻までに参集しない場合は、棄権したものとみなし、相手チームに不戦勝 (5-0) を与える。
- ③ 雨天、日没等、試合続行不可能な状況の場合は、競技会場・試合開始時間の変更・試合時間の短縮等大会本部の指示に従うものとする。